

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりが豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手となるために

- 1 自ら考え行動し、課題を解決する力を備え、多様な人と協働できる生徒を育てる。
- 2 地域コミュニティを支える良識ある市民を育てる。

2 中期的目標

- 1 総合学科の特性を生かした教育課程を展開し、確かな学力の定着と学びの深化を図る

(1) ミドルリーダーを中心として組織的に授業改善に取り組み、教員の授業力向上に取り組む。

(2) 生徒一人ひとりの学習状況を観点ごとに適切に評価できるよう、工夫・改善を行う。

(3) 各教科等の内容を相互の関係でとらえ3年間で生徒たちが必要な資質・能力を身につけることができるよう、総合学科としてのカリキュラムを実施する。

※授業アンケートの「興味関心が持てた」の「とてもそう思う」をR8年度に50%以上にする。(R3:46/R4:47/R5:48)

※学校教育自己診断(生徒向け)の「学校は1人1台端末を有効に活用している」の「よくあてはまる」をR8年度に60%以上にする。(R4:53/R5:52)

「教え方に工夫をしている先生が多い」の「よくあてはまる」をR8年度に40%以上にする。(R3:29/R4:30/R5:32)

「この学校には自分にあったフィールドや科目がある」の肯定的評価85%を維持する。(R3:89/R4:87/R5:87)

「授業で発表する機会がある」の肯定的評価を、R8年度まで90%を維持する。(R3:90/R4:93/R5:94)

(以下「学校教育自己診断(生徒向け)」は「生徒診断」、「学校教育自己診断(保護者向け)」を「保護者診断」と表記する。)
- 2 総合学科の学びの柱となるキャリア教育を充実させ、生徒が主体的に学ぼうとする意欲を育てる。

(1) 進路部・教務部・学年を中心に教科とも連携を図り、3年間を通じたキャリア教育を充実させる。

(2) 放課後の講習など進路指導部を中心に組織的に実施し、生徒の進路実現を図る。

(3) 生徒の進路や興味・関心に応じて、適切な資格所得を推進する。

※生徒診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定的評価を、R8年度まで90%以上を維持する。(R3:96/R4:94/R5:96)

「フィールドや選択科目のガイダンス・指導はわかりやすい」の否定的評価を、R8年度に8%以下とする。(R3:10/R4:14/R5:12)

※4年制大学進学希望者の4年制大学への進学率をR8年度に90%以上を維持する。(R5:98/R4:95/R3:97)

就職希望者の就職率をR8年度も100%を維持する。(R5:100/R4:100/R3:100)
- 3 生徒の発達の支援と安全で安心な魅力ある学校づくり

(1) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努め、生徒が自分で判断して自らの行動を律することができることをめざす。

(2) 生徒が安心して学校生活を送ることができるように、個々の生徒への支援体制を強化する。

(3) 生徒が多様性を認め、お互いを尊重することができるよう、人権尊重の意識や道徳的な態度を育む取組みを充実させる。

(4) 生徒会活動・委員会活動をさらに充実させ、生徒の自主的活動を推進する。

※生徒診断「学校生活について、先生の指導は納得できる」の「よくあてはまる」を、R8年度まで30%以上にする。(R3:25/R4:26/R5:27)

「情報機器やSNSを使用する際にルールを守っている」の肯定的評価95%以上を維持する。(R3:97/R4:98/R5:98)

「何かあれば相談できる先生がいる」の否定的評価をR8年度までに25%以下にする。(R3:29/R4:31/R5:29)
- 4 自走する教職員集団の育成と学校の組織づくり

(1) 新たな教育課題に即応できるよう、「明日のなみはやを考える会」を中心に学校組織の活性化を図る。

(2) 校務運営の効率化につとめ、働き方改革を推進する。

(3) 保護者・地域・異なる校種・教育関係機関等との連携をあらゆる場面で充実させる。

※保護者診断「学校は、家庭への連絡や意思疎通を十分行っている」の肯定的評価を80%以上にする。(R5:73/R4:76/R3:76)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見				
※下の表の数字は生徒回答の第一評価の% 生徒たちは本校に来る意義を感じている	第1回 令和6年6月12日(水)				
	R6	R5	R4	R3	R2
学校に行くことに意義を感じている	40	40	42	43	49
門真なみはや高校に入学してよかったと感じている	41	49	49	52	65
この学校は自分にあったフィールドや科目がある	59	52	49	56	61
授業を受ける環境整備について再確認が必要である	R6	R5	R4	R3	R2
生徒が静かに授業を受ける環境がある	44	41	49	52	43
教室はきれいで、授業を受ける態勢ができています	38	36	41	43	38

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見
----------------	--------------

府立門真なみはや高等学校

第二評価を合わせると 86%の生徒が、先生は工夫していると肯定的にとらえ、95%の生徒が発表の機会があると感じており、昨年度より増加している。					
	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
教え方に工夫をしている先生が多い	29	32	30	29	33
授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある	49	40	40	40	43
第二評価を合わせると 8 割程度の納得感があり、昨年度より向上している。					
	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
学校の制服・遅刻・頭髪指導は適切だと感じる	29	27	25	28	42
学校生活について先生の指導は納得できる	29	27	26	25	37
先生は生徒に対して適切な態度や言葉遣いで接している	41	43	42	39	47
生徒は行事に前向きに取り組んでいるといえる					
	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
文化祭、体育祭、球技大会などの生徒会行事は有意義だ	61	63	59	57	72
将来の進路、生き方について十分考える機会があると生徒は感じている					
	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
将来の進路や生き方について考える機会がある	61	60	59	62	71
命の大切さや、社会のルールについて学ぶ機会があるといえる					
	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
命の大切さ、社会のルールについて学ぶ機会がある	59	48	50	41	41
この学校では、十分人権に配慮がなされている					
	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
この学校では、十分人権に配慮がなされている	54	55	57	56	59
この学校では、多文化共生への理解を深めることができる	60				
何かあれば、相談できる先生がいるの否定的評価は激減した。					
	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
何かあれば、相談できる先生がいる	32	32	30	36	33
この学校では、教職員が「いじめ」がおこらないように気を配っている	34	33	31	32	32
この学校では、生徒間の「いじめ」はみられない	51	58	62	67	69
奨学金制度について、より丁寧な説明が必要である					
	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
フィールドや選択科目のガイダンス指導はわかりやすい	46	44	40	42	52
奨学金制度について、紹介や説明がなされている	49	43	52	45	48
1 人 1 台端末の活用をさらに進める。					
	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2
学校は 1 人 1 台端末を効果的に活用している	63	52	53	—	—
第 2 回 令和 6 年 10 月 23 日（水）					
○授業見学後の感想					
・情報機器の発展に伴い、生徒の学びも変わってきている。					
・先生も工夫をこらしているが、生徒がもっと活動できるような働きかけをして、生徒に委ねるとよくなるのではないか。					
・授業中のタブレットを使用して、何が出来るのかという視点で、フィールドの授業を結び付けばより良い学びになっていく。					
○その他					
・フィールド、行事など様々な機会に、成長の場を用意し生徒を育てている学校の姿勢がよく分かった。今後も生徒中心に活躍する場を提供していただくことを望んでいる。					
・授業参観や先生方の報告から、学校と社会との接点が設けられており、さすが高校と感じた。					
・個別最適化、正解のない授業など、一人ひとりに考えさせ、イメージから考えを深めていく様々な活動を繋げることが大事だと感じた。					
第 3 回 令和 7 年 1 月 15 日（水）					
○令和 6 年度学校経営計画及び学校評価について					
・多文化共生の理解について、潜在的に外国籍の子どもたちと一緒に常に学ぶ環境が非常に生かされている。理解のレベルから一歩進んで多文化をマネジメントして何か結果を生み出すところまで求めていくことができるのではないか。					
・生徒自身が自分の学習を工夫改善していける「自己管理型の学習者」となるようなスキルを身に付けていけることが大きなポイントになるのではないか。					
・教員自身がしっかり考え行動できる「自走する教職員集団」、「自走する」というおもしろい捉え方で、生徒への教育にも還元できるのではないか。					
○令和 7 年度学校経営計画について					
・生徒の発表を聞いていて、「自分たちの主体性をもって学んできた」というのが本校の良さではないか。評価指標はそのことが見えるものがないのではないか。					
・生徒が主語となる質問項目に変えていけば、先生方の工夫や努力が生徒の学習成果に反映されるようなことにも繋がっていく。					
○その他					
・数値目標については相対的に高い評価をあげているが、高い目標を達成できているのは先生方のお蔭かと思うが、それが何なのかを分析してください。					
・この限られた時間の中で、なみはやの取組を伝えようとする先生方の姿勢が、日々の授業にも繋がっているのではないか。					
・「よく学び、よく遊ぶ」という実践をこれからも続けていってほしい。					

本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 4 年度値〕	
1 総合学科の特性を生かした教育課程を展開し、確かな学力の定着と学びの深化を図る	(1)ミドルリーダーを中心とした組織的な授業改善、教員の授業力向上に取り組む。	A 教員相互に授業見学を行い、授業力を高める。また研修の機会を有効に活用する。 I 授業内外での 1 人 1 台端末等の活用を推進する。	A ミドルリーダーを中心とした公開授業週間や授業改善の研修等を年間 2 回以上実施する。 I 生徒診断「学校は 1 人 1 台端末を有効に活用している」の「よくあてはまる」54%をめざす。〔52%〕	A ミドルリーダーを中心とした公開授業週間と初任者の研究授業（事後研究会を含む）を 2 回実施できた。（○） I 「1 人 1 台端末の有効活用」については、「よくあてはまる」が 63%となり、目標を大きく上回った。（◎）
	(2)生徒一人ひとりの学習状況を観点ごとに適切に評価できるよう、工夫・改善する。	A 観点別評価の確立に向け実践を重ねる。 I 学習評価を活用し、学習指導の見直しを絶えず行う。	A 教科を越えて観点別評価の好事例を共有する会議を年間 2 回以上実施する。 I 生徒自己診断「教え方を工夫している先生が多い」の「よくあてはまる」34%をめざす。〔32%〕	A 観点別評価について、職員研修などの効果的機会を持つことはできなかった。（△） I 「よくあてはまる」の項目は教え方を工夫している先生が多い」の項目は、29%で目標を下回ったが、肯定的評価は 86%と昨年度を 2 ポイント上回った。（△）
	(3)生徒たちが必要な資質・能力を身につけることができるよう、総合学科としてのカリキュラムを実施する。	A カリキュラム・マネジメントをすすめ、教科を越えてカリキュラムの評価・点検を推し進める。 I 話し合い、調べ学習、発表、実験、実習、地域貢献等を通して、考える力・まとめる力・発表する力等を育成する。	A 生徒診断「この学校には自分にあったフィールドや科目がある」の肯定的評価 85%を維持する。〔87%〕 I 生徒診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」の肯定的評価 90%を維持する。〔93%〕	A 「自分にあったフィールドや科目」の肯定的評価は 93%と目標を達成するとともに、大きく上昇した。（◎） I 「授業での発表等の機会」は、肯定的評価 95%となり、目標を達成するとともに上回った。（◎）

府立門真なみはや高等学校

2 総合学科の学びの柱となるキャリア教育を充実させ、生徒が主体的に学ぼうとする意欲を育てる。	(1)3年間を通じたキャリア教育を充実させる。 (2)講習など進路指導部を中心に組織的に実施、生徒の進路実現を図る。 (3)生徒の進路や興味・関心に応じて、適切な資格所得を推進する。	ア 「産業社会と人間」から始まる3年間のキャリアプランを作成する。 イ 生徒が科目選択を通じて自己実現を図るガイダンス機能を充実させる。 ア 多様な学びの中で形成した個々の力を最大限に発揮できるよう、生徒が最後まで努力することを支援し、希望進路の実現を図る。 ア 資格取得の意義を理解できるように生徒に積極的な働きかけを行う。	ア 生徒診断「将来の進路や生き方を考える機会がある」の肯定的評価 90%以上を維持する。〔第一評価 60%〕 イ 生徒診断「ガイダンスはわかりやすい」の否定的評価を 10%以下にする。〔12%〕 ア 3 学年当初の四年制大学進学希望者の四年制大学への進学率 80%以上を維持する。〔98%〕 就職内定率 100%を維持する〔100%〕 ア・漢字検定・英語検定受験者総数を前年度程度維持する。〔180 名〕 ・選択したフィールドに関する資格試験の受験率（パソコン検定など 80%以上維持）〔100%〕	ア 「将来の進路や生き方を考える機会がある」の肯定的評価は 97%で、目標を大きく上回った。(◎) イ 「ガイダンスはわかりやすい」の否定的評価は 6%と、目標を大きく上回った。(◎) ア 3 学年当初の四年制大学進学希望者の四年制大学への進学率は 89%となりほぼ目標を達成することができた。(○) 就職内定率 100%を維持した〔100%〕(○) ア・あわせて 126 名（英語検定 100 名、漢字検定 26 名）となり、昨年度より大きく下回った。(△) ・フィールドに関する資格試験の受験率 100% (○)
3 生徒の発達の支援と安全で安心な魅力ある学校づくり	(1)基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努め、生徒の自律をめざす。 (2)生徒が安心して学校生活を送ることができるように、個々の生徒への支援体制を強化する。 (3)生徒が多様性を認め、お互いを尊重するため、人権尊重の意識や道徳的な態度を育む取組みを充実させる。 (4)生徒会活動・委員会活動をさらに充実させ、生徒の自主的活動を推進する。	ア 生徒の思いを理解しつつ指導し、生徒がその目的を理解し納得感を得られるようにする。 イ 特に SNS 等の利用について、生徒の情報リテラシーを育成し高めていく。 ア 軽微なことでも生徒についての情報を共有する情報交換会の開催。 イ SC、SSW などの外部人材を活用した校内組織をつくる。 ウ 生徒相談室を充実させるなど相談体制の充実を図る ア 生徒の短期語学研修の充実 イ 外国の学校との相互交流の実施 ウ 日本語指導が必要な生徒と一般選抜合格生徒も含めた生徒間交流を促進する ア CM 会議とともにリーダートレーニングを実施し、生徒の自主的な態度を育成する。	ア 生徒診断「学校生活について、先生の指導は納得できる」の「よくあてはまる」を 28%以上にする。〔27%〕 イ 生徒診断「情報機器や SNS を使用する際にルールを守っている」の肯定的評価 90%以上を維持する。〔98%〕 ア 学年主任や養護教諭等を含めた生徒情報交換会を 10 回以上開催する。〔16 回〕 イ SC、SSW を構成メンバーとした会議を 2 回以上開催する。〔2 回〕 ウ 生徒診断「何かあれば相談できる先生がいる」の否定的評価を 28%以下にする。〔29%〕 ア 短期語学研修を実施する。〔オーストラリア〕 イ 1 校以上の交流を受け入れる。または、受け入れができない場合はオンラインによる交流を複数回実施する〔2 回。韓国、中国〕 ウ 外国にルーツのある生徒達等による文化発表会等での自国文化の紹介を年 2 回実施する。〔11 回（国際交流イベント出演を含む）〕 ア ・生徒会、部活動員及び学年等の生徒を対象にしたリーダートレーニングを実施する。〔新規〕 ・部活動加入率 70%以上を維持する〔74%〕	ア 「よくあてはまる」は 29%と、目標を達成できた。(○) イ 「情報機器や SNS の使用についてのルール順守」は、99%で指導の成果が上がっている。(◎) ア 学年主任や養護教諭等を含めた生徒情報交換会を 21 回開催した。(◎) イ SSW を講師に校内研修を実施するとともに、ケース会議を持つことはできた。(○) ウ 「何かあれば相談できる」の否定的評価は 23%で、目標を大きく達成した。(◎) ア 台湾への短期語学研修を実施した（参加者 6 名）。(○) イ 海外からの訪問はなし。オンラインによる交流は、韓国の高校と交流を実施した。(○) ウ 学年集会において、外国ルーツの生徒が自国文化の紹介を行ったほか、門真市や他市で行われた国際交流イベントに 15 回出演した。(◎) ア ・CM 会議を兼ねて、4 回実施することができた。(○) ・部活動加入率は 64%となり、目標を達成することができなかった。(△)

府立門真なみはや高等学校

4 自走する教職員集団の育成と学校の組織づくり	(1)「明日のなみはやを考える会」を中心に学校組織の活性化を図る。	ア 学年・分掌等の組織単位で、学校経営計画を意識し、学校の課題解決のための取組を推進できる教職員集団をめざす。	ア 「明日のなみはやを考える会」を中心に、どの分掌や委員会にも属さない又は横断するような課題に取り組み、会議を年間を通して10回以上実施する。〔11回〕	ア 年間13回開催することができた。次年度も引き続き、どの分掌や委員会にも属さない又は横断するような課題に取り組む。(◎)
	(2)校務運営の効率化につとめ、働き方改革を推進する。	ア 委員会の精選や会議の運営方法を改め、教職員の時間外勤務の削減をめざす。 イ 会議資料、小テスト等教材でのペーパーレス化を進める。	ア 教職員の一人当たり時間外勤務時間数を前年度比で1％削減する。 イ 運営委員会や職員会議において、引き続き資料の電子化を進める。	ア 新たな課題の対応等で、削減できずに増加に転じた。次年度は、再度業務の見直しを行い、時間の削減に臨む。(△) イ 運営委員会や職員会議において、資料の電子化を実施できた。(◎)
	(3)保護者・地域・教育関係機関との連携をあらゆる場面で充実させる。	ア 保護者、地域、中学校等へ本校の取り組みを積極的に発信する イ 保護者連携の推進のため、メールの一斉配信など確実な連絡を行う。	ア フィールドブログを年間5回更新する。〔3回〕 イ 保護者診断「学校は、家庭への連絡や意思疎通を十分行っている」の肯定的評価を75%にする〔73%〕	ア フィールドブログを年間9回更新。(1月現在)(○) イ 肯定的評価は72%と、目標は下回った。メールの一斉配信の回数を増やすなど、次年度改善していく。(○)